
アタシが待っていた言葉

尾束 珠

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

アタシが待つていた言葉

【Zコード】

Z6948G

【作者名】

尾束 珠

【あらすじ】

アタシは人生なんてつまらないと思っていた。もうすぐ死んでやううと思っていた。だけどある日、アタシの初恋の耕太郎とのバカな会話は、私を生き返してくれた。

(前書き)

ライトなストーリーです。暇つぶしに、よろしかったら・・・。

「オイ！奈津美。俺の顔に何か付いてるか？」

アタシは耕太郎の声で自分に戻った。

教室のアタシの机の近くで男友達とダベッていた耕太郎。知らず知らずに虚ろな目で彼を見ていた。アタシは自分の世界に入っていたみたい。

「うーうん。何も付いてないよ、耕太郎」

アタシは窓の外に目を移して空の色を見る。

この青い空の向こうには、暗黒の宇宙がある。

この暗い宇宙で、アタシは何を求めて生きているの？この暗い世界で、アタシは何故生まれてきたの？

「奈津美！ボーとして、息するの忘れるなよ！」

ほつとけ、バーカ！でも人間って変な生き物だよね。

生きている事自体が、苦しみ悲しみばかりだもの。

楽しい事もあるけど、刹那に近い瞬間だけ。

やがて、疲れて年老いて、後悔しながら死んでゆく。

「奈津美！オレ帰るけど、オマエどうする？」

耕太郎は悩みが無さそうでいいよね。

高校三年になつても、少年のような瞳をしてる。

アソシは何か悩みは持つてるんだろうか？

たぶん悩みが無い事が、悩みかもしれないな。

「うん。アタシも帰る。チャリに乗つけて帰つてよ。耕太郎！」

確か、アタシは中学二年の時に耕太郎に言つたよね。

”アンタ、好きな女の子いないの？”つて。

「奈津美ーしつかり俺に捕まらないと、チャリから落っこちるぞ」
解つてるわよ、そんな事。子供じやないんだから。
でも、耕太郎に乗せてもらつチャリは気持いいなあ。
何故つて?この街の風を感じる事が出来るから。
通り過ぎる景色と季節の匂いを感じる事が出来るから。

「奈津美。最近、オマエ変だよ。何か有つたのか?」
ご心配なく。何にも変わつた事はありませんよ。
何にも変わつたことが無いから、落ち込んでるんですけどね。
人間は変化が無いと成長しないんだよね。
だから、アンタは昔から成長していないのかね?」

「うーうん。変わつた事は何も無いよ。耕太郎」
ところでアンタは、何かいい事あつたのかしらね。
いつものように、何だか今日もアンタ楽しそう。
一年中、楽しそうにしてるアンタは何者なの?
タダの無邪氣で鈍感なバカな高校生なの?

「ねえ、耕太郎!」
「はあ?何?」
呼んだだけだよ、ただ呼んだだけ。
アタシには何も無いから。心が空っぽになつてただけだから。
単純なアンタに、この気持が解つてたまるもんですか。

「奈津美ーマジでオマエ最近、壊れてるんじゃない?」

壊れてるんじゃなくて、正確には壊れかけてるんだよ。自分で何でか解んないけど、不思議とそう思う。

壊れるなら、壊れてしまえホトトギス。

そんな俳句は無かつたような気がする。

「壊れてしまつて、どういう感じなのか解る？耕太郎！」

おい、早く答えるよ。耕太郎のバ～力！

壊れる感じを味わつた事の無いアンタには解らないかもね。死にたいと思つたこと無のいアンタには解らないかもね。

今のアタシには、こんなアタシ自身が意味が無い生き物なの。

「壊れるつてさあ。悲しい事だよ。奈津美は、そう思わない？」
はあ？アンタ答えになつてないじやん。

アンタは18年間、”死んでしまいたい”と思つた事つてある？

アンタは18年間、悩んで眠れなかつた夜つてある？

アンタは18年間、自分の存在を完全に否定した事つてある？

「そんなに悲しい事なの？壊れたほうが美しいものもあるよ。耕太

郎」

悲しい結末の映画が、心に残るよ。

過ぎていつた過去が、美しいよ。

無くなつてしまふ何かが、愛おしいよ。

壊れたモノの方が、美しいかもしねよ。

「耕太郎！アタシ壊れる事つて、案外好きかもよ」

誰かの醜い心の中も見なくていいし。

誰かの成功にジェラシーする事もないし。

誰かの裏切りに涙する事も無いし。

そんな事考へているアタシは、やっぱ出来の悪い女だよね。

「奈津美。オマエが壊れたら、どうなるの？」

アタシが壊れたら、冷たくなるだけだよ。

アタシが壊れたら、居なくなるだけだよ。

アタシが壊れたら、アソタと逢えなくなるだけだよ。

でも、今より歳を取らないアタシが永遠に残るかも。

「アタシが壊れたら？ チヤリに乗せてもうえなくなるね」「たぶん、チヤリには乗れないだろう。

その時のアタシは、チヤリに乗らなくとも移動できるかも。自由に空間を移動出来るかもね。

でも、そんな事は死んだ事無いから、アタシは解らないけどね。

「あははは・・・奈津美！ オマエって本当にバカだよな」「はあ？ アンタにバカ呼ばわりされたくないし。

つてか、アタシよりアンタの方がバカっぽいじゃん。

バカは死ななきや治らないって言うけど。

悪いけど、アンタは死んでも治らないと思つよ。

「アタシの何処がバカだと言うのよ耕太郎！」

アンタ程でも無いとは、アタシは自信を持つてるんだけどね。アンタの意見も聞いておかないと失礼でしょ。

長い間、幼馴染みをやつてる親しい関係だからね。

早く言ってみなさいよ耕太郎のバーカ！

「でもな。オレさあ。そんなバカな奈津美が好きかも」「はあ？ 何を言つてるのか意味不明じゃん。

好きだって、どういう意味さ？

好きにも色々有るつてことを、解つて言つてるの？

ちなみにアタシは、マンゴープリンは好きだけどさ。

「バカつて言わないでよ。耕太郎こそ、バカじやない！」
チャリは夕焼け色の、川の土手道で止まつたみたい。

どうして急に、チャリを止めたのよ。

こんな所には、コンビニは無いけどね。

夕陽を見るような、ロマンティックな場所でも無いでしょ。

「奈津美！とつととチャリ降りろ！」

あら？ バカつてアタシが言つたから怒つちゃつたの？

そんな事で怒るなんて、心が小さいぞ耕太郎。

幼馴染みの分際で、命令口調で言うなよな。

それも、こんな可愛いこ女に向かつて・・・

「何よー怒ること無いじやない耕太郎！」

ここから歩いて帰らせるなんて、ヒドイじやない。

バカと言つた事は謝るけど、先にバカと言つたのはアンタじゃん。
あーあ。いつまで経つてもアンタとアタシは平行線ね。
何処まで行つても交差しない、バカ男とバカ女。

「奈津美。今までさあ。誰かを好きになつた事ある？」

はあ？ やつぱり、アンタはバカだよね。

うら若きこ女が、恋をしない訳が無いでしょ。

そんな事も知らずに、18年間呼吸していた訳？

そんな事も知らずに、アタシと幼馴染やつてきた訳？

「耕太郎は失礼ね。人並みにアタシだつて恋はするつしょー！」

仏様のように無欲で生きていた訳じやないしむ。

そうそう、言つときますけどアタシだつてね。

男の子から、口クられた事だつて、数回有るんだよ。

ホントに失礼こいちゃうわ、耕太郎。

「そつなんだ。奈津美も好きなヤツ居たんだ・・・」

当たり前でしょ、そんな事言つ為にチヤリ止めたの？

世界不思議発見じや有るまいし、ビックリする事じや無いわよ。

はあ？ ちょっと待つてよ耕太郎。

”好きなヤツ居たんだ” つて過去形に何故するかな。

「ソイツのことは、今でもアタシ好きなんだと思つよ」
つてが、何でアタシの個人情報を告白しなきやいけないの。
法律で保護されるべき事じやないの？

何か、バリ恥ずかしいじやん。

顔が何だか、熱くなつて来ちゃつたじやん。

「へえ！ そつなんだ。奈津美はソイツの事、今も好きなんだ・・・」
ピンポーン！ 当たり前でしょ。

アタシは、アンタが思うより浮氣つぽくないんだよ。
だから、そんなアタシは、こんなアタシが好きなんだ。
恋愛つてね。好きな人に恋する、自分の姿が好きなんだよ。

「ほつといてよ！ アンタに関係ないでしょ！ アタシの事なんだから
！」

ん？ ・・・ 関係無いことは、無いかもね。

だつて、ずっと好きなのは、耕太郎、アンタだしね。
それに気づかないバカは、アンタの事だよ。

小学6年から、好きだつたんだよ。知らなかつただろ、バカ！

「奈津美つて、恋とかしない人種だと思つてたよ
ナヌツ？ どんな人種でも恋はするつしょ？
白人だつて、黒人だつて・・・ 犬だつて猫だつて。
アタシだつて、平々凡々な女の子ですからね。
平々凡々な、アンタに恋した訳ですよ。

「そんならさあ。耕太郎は今、誰かに恋してる訳？」

「どうせ、口クデモない女を好きになってるんでしょ？」

そんな話を、アタシにしても恋愛のアドバイスはやらないよ。不器用なアンタの書いたラブレターなんて、相手に通じないよ。つてか、アンタの文才の程度は知らないけどね。

「俺か？・・・それが恋してるんだなあ。ビックリだろ奈津美？」

おや、本当にビックリだよ耕太郎。

アンタが秘かに恋する、トボケタ女を知りたいよ。

やつとアンタも、一人前の恋する男の子だね。

ヨツ！カツコいいね耕太郎。

「でも、耕太郎の好きな女つて、変わり者じゃないの？」

「どうせ、変てこな考え方の女に決まってるし。」

アンタには、お似合いのカノジョかもね。

とつとつ、コクつて振られたらしいのにね。

”残念会”くらいは付き合つてあげてもいいよ耕太郎。

「あははは・・・そう来ると思つたよ。でも、それって当たりかもな」

「だろう・・・だろう・・・当たりでしょ。」

それを自分で解つてるんだつたら、まだ救いは有るよ耕太郎。

アンタと付き合つコツを伝授してあげようか。アタシがカノジョに。

結構、難しいんだよ。アンタに合わすのは。

「そうでしょ？絶対その子は変わってる女だと、アタシは思うよ」

何なら太鼓判おして、保証書つけてあげてもいいわよ。

アンタが好きになるタイプは解つてるんだから。

ン？・・・ちょっと待つて、アタシはアンタの好み知らないかも。まあ、どうでも良いけどね。アタシにとつては。

「そこまで、無茶苦茶言わなくてもいいだろ？奈津美！」
それくらい言わせて貰つても、いいでしょ！耕太郎。
だつて、アタシは6年間もアンタのこと、思つてるんだもの。
それぐらいは言わせてくれなきやね。幼馴染みもあるし。
悔しかつたら、私のビックリするような女と付き合えよ。バーカ！

「で、誰なの？アンタの好きな彼女って？」

アタシが笑うよつな名前を出したら、アタシは「ケちゃうぞ。
やつぱり、アンタらしい女を好きになつてるねって言いたいね。
で、誰なんだよ。はやく白状しろって耕太郎。
絶対、アタシは大声で笑わつてやるからね。

「それは、奈津美だよ！」

「ほら、そうでしょう。そうでしょう・・・
エッ？・・・今、アンタ何て言つた？耕太郎。
”ナツミ”って、この高校にアタシ以外に居たっけ？
それとも・・・”ナツミ”って、アタシの事？」

「それって、アタシの事？耕太郎・・・」

「それって、マジでアンタは言つてるの？
でも、ひょっとしたら、アタシの聞き間違い？
アンタね。悪い冗談言つてると、後でぶつ飛ばすけどいい？
それとも・・・耕太郎。マジのマジでアタシなの？」

「そうだよ、奈津美。オマエが好きなんだオレは。ズーッと前から
ウソ？マジで？アンタは冗談言えるタイプの男じゃないよね？
全く不器用で、ぶつきら棒で、無頓着で、鈍感だよね？」

アンタ、頭おかしくなったんじゃ無いよね?
それこそアンタ、壊れちゃったんじゃ無いよね?

夕陽が綺麗で涙を溜めているじゃないよ。
悲しくなつて泣いてしまったんじゃないよ。
死にたくなつて頬を濡らしているんじゃないよ。

今日から生きる価値を、見つけたような気がするよ。
生きて来た中で、一番素敵なもののような気がするよ。
アンタのその言葉をずっと前から、アタシは待つてたような気がするよ。

(後書き)

有難うございました。誰もが、こんな時期が有りましたね。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6948g/>

アタシが待っていた言葉

2010年10月8日14時59分発行